

南半球便り（その 94）：メルボルン・カップ、そして野球交流

11 月 9 日

先週、改めてメルボルン、シドニーに駆け足で出張してきました。岸田総理豪州訪問の興奮冷めやらぬ中、体力的に厳しかったのは事実ですが、非常に実り多い出張となりました。



会場のフレミントン競馬場に詰めかける競馬ファン

1. 競馬「メルボルン・カップ」

メルボルン出身の豪州人の友人から、かねがねこう言われてきました：

「競馬のメルボルン・カップ、AFL（豪州式フットボール）の試合、テニスの全豪オープンを観ずして、メルボルン、そして豪州を語るべからず。」

幸いにして後二者については、既に体験する機会に恵まれ、南半球便りでも報告して参りました。漸く今回、日本中央競馬会（JRA）の方々のご配慮のお陰で、念願叶ってメルボルン・カップを堪能することができたのです。

しかも、ハーレー連邦総督ご夫妻、デソウ・ビクトリア州総督ご夫妻、ファレル連邦政府貿易大臣ご夫妻といった VIP とご一緒し、特等席から観戦する栄誉に恵まれました。外国大使では、日本の他には、ケネディ米国大使が参加されていました。

2. えもいえぬ雰囲気

コロナ禍で中止や観客数制限に服してきたため、本格的に大観客を受け入れての再開は3年ぶりの由。7万人もの大歓声に包まれたフレミントン競馬場でのメルボルン・カップは、時折雷雨に襲われるあいにくの天候にもかかわらず、熱気と興奮のるつぼでした。

メルボルンっ子自慢の看板行事故、前夜祭のレセプションが、宮殿のようなビクトリア州総督公邸の大ホールで、数百名にも上る招客を集めて行われた程です。そこでは、代々のカップで着飾られた、洒落た洋服や帽子が所狭しと陳列されていました。



陳列された衣装の数々

女性のお洒落も

メルボルン・カップにおけるもう1つの“勝負”なのです。

デソウ総督ご夫妻の心温まるお気遣いに甘え、改めて公邸に泊めていただきました。でも、隣の公園で深夜まで繰り広げられていた前夜祭コンサートのアップビートな音楽に気分がたちまち高揚し、深更まで寝付けませんでした（笑）。

3. 決めるときは決める

興味深かったのは、ドレスコード。「モーニング・コートか民族衣装」との指定。

そこで私は、皇居での天皇陛下による認証式以来のペンギン服で登場。家内は着物で赴きました。

赴任前には、「オーギーはカジュアルなので、タキシードなどを着る機会はまず無い。」などという引き継ぎもありましたが、ところがどっこい。要所ではブラックタイ・ディナーがしばしば行われていますし、メルボルン・カップではドレスコード破りの男性も見受けられたものの、殆どの要人は忠実に装ってきていました。



その上、女性に至っては、何とも華やかなもの！ドレス、帽子といい、まさしく百花繚乱状態でした。

肝腎の競馬ですか？「勝ち馬に乗れ」とばかり、一番人気の馬に単勝で賭けた浅はかさ。「後悔、先に立たず。」とはこのことですが、よい勉強をさせていただきました！

トロフィーを持って“験を担ぐ”妻と私。
、、、結果は聞かないで下さい。

4. スポンサーは日本企業

ひとときわ嬉しかったのは、「メルボルン・カップ」が「レクサス・メルボルン・カップ」として、スポンサーの日本企業の名称を付して呼ばれていたことです。



「レクサス・メルボルン・カップ」との看板

VIP の集ったチェアマンズ・スイートに隣接した「レクサス・スイート」には、日本企業の重鎮の方々が列席されていました。これこそ、大使の出番。ハーレー総督ご夫妻、デソウ・ビクトリア州総督ご夫妻、ファレル貿易大臣ご夫妻、そしてケネディ米国大使を次々に隣室にご案内し、居合わせた日本企業の方々と一緒に記念写真を撮っていただいたのは、良い思い出になりました。



ハーレー連邦総督ご夫妻（中央）、デソウ州総督（その右）、日本企業の方々と



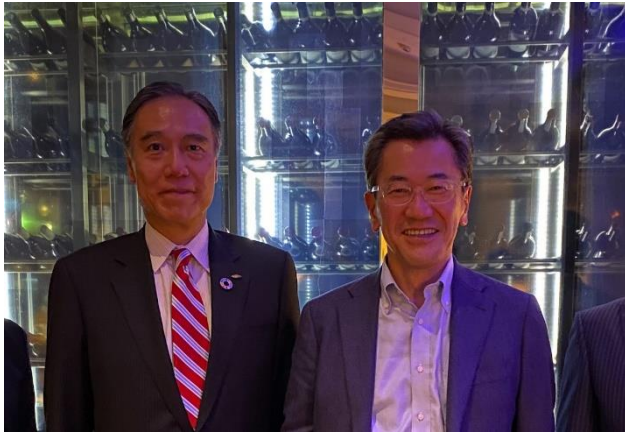
ケネディ米大使と日本企業の方々と

5. 朋、遠方より来たる

メルボルン・カップの余韻残る翌朝、飛行機でシドニーに向かいました。というのも、阿部守一長野県知事、糟谷敏秀東京ガス専務が相次いでシドニーを訪れてくれたからです。

お二人とも、遙か昔（笑）に大学で私と同級生だった間柄。自治省を経て長野県知事として活躍されている阿部知事とは、豪州から長野県への観光客を如何に増やしていくか、経産省を経て東京ガスで活躍されている糟谷専務とは、豪州との資源エネルギー協力を如何に進め日本の経済安全保障を確保していくかにつき、それぞれじっくりと意見交換できました。

日豪相互の旅行・入国制限が解除され、人の往来が戻りつつあることも、深く実感しました。



阿部長野県知事と



糟谷東京ガス専務と

6. 野球レセプション

シドニーでの大きな仕事の一つは、新任の徳田総領事夫妻と共に、豪州野球チームの壮行会を総領事公邸で開催することでした。というのも、翌週には札幌で侍ジャパンとの二試合を控えている豪州チーム。日本に飛び立つ前日にレセプションに招待した次第です。

監督は中日ドラゴンズでプレーしたディンゴ。グッと握手した手は、まさにグローブのよう！
コーチには、抑えのエースとして日ハムを日本一に導いたマイケル中村さんもいました。



豪州野球代表チーム、豪州野球協会関係者及び徳田総領事夫妻（中央右）

元野球少年の私には、何ともこたえられない行事。侍ジャパン・栗山監督からビデオ・メッセージをいただき、徳田総領事が侍ジャパンのユニフォームで登場し、私は豪州チームのユニフォームで登場。「裏切り者」の罵声が飛んできそうですが、「これも外交。」と笑って許してください。その代わり、札幌での試合を観る際には、声を枯らして侍を応援します。

【レセプションでのスピーチは[こちら](#)でご覧いただけます。いつにも増して、全力投球しました。】



野球日本代表侍ジャパン 栗山英樹監督



豪州野球代表チーム監督 デイビッド・ニルセン
(ディンゴ) 氏



豪州チームのユニフォームでスピーチ

7. スピーク・ベースボール

昔の「洋モク」(米国タバコ)の宣伝文句ではありませんが、日豪はともに「スピーク・ベースボール」する間柄。個人競技だけでなく、団体競技にも秀でる両国だからこそ、でもあります。

夏の気配が濃厚に漂い始めた黄昏のシドニー湾に臨む、総領事公邸プールサイド。野球談義が尽きることはありませんでした。2004年のアテネ五輪で二度にわたり日本を破った戦績に胸を張りつつも、「大谷翔平は信じられない。今や日本野球こそが世界ナンバーワン」と真顔で言ってくれる雲を突くような巨人連に囲まれ、何とも誇らしく元気の出る夜となりました。



総領事公邸で歓談する参加者

山上信吾